

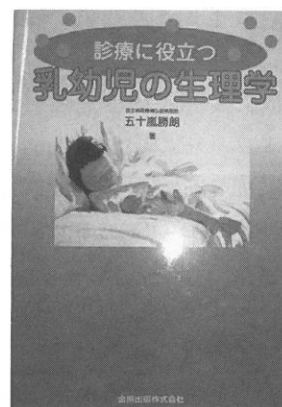
## 図書紹介

### 診療に役立つ乳幼児の生理学 Clinical Physiology in Infants and Children

金原出版 2007. 3. 20

定価 本体2,500円+税

著者 五十嵐勝朗 (国立病院機構弘前病院長)



子どもは発育とともに生理機能が発達していくと言われていました。2002年に『日本人の育児』（金原出版）を執筆したときに、私が乳幼児の成長発達をいかに理解していないかを痛感しました。それを契機に乳幼児の発達を理解しようとする文献を漁りましたが、教科書的にはほとんどが成人についての記載でした。これまでも「子どもは大人のミニチュアではない」と言われてきましたが、実際的には大人のミニチュアではないことの学問的証明は困難な部分がたくさんあることがわかりました。

今回生理学者の立場ではなく、約40年間の現場に携わった小児科医の立場から、一部の経験を踏まえて乳幼児の発達生理について畏れを顧みず執筆に取り組みました。

今回の執筆でかなりのところまで解明されていることがわかりました。また乳幼児の発達生理は部分的ではなく、全体的に捉えなければならず、そうすると記載が自ずと複雑化してきます。そこを簡明にすることにかなりの労力を要しました。その一方で、乳幼児の発達生理には神秘性という部分が多々あることもわかりました。

内容としては1.総論 2.DNA 3.脳 4.反射 5.呼吸 6.免疫 7.消化・代謝 8.運動 9.神経 10.内分泌 11.睡眠 12.感覚 13.皮膚 14.骨 15.歯 16.体温 17.発熱 18.血液・血管 19.体液 20.栄養 21.生理機能の正常値 22.尿意 23.健診 24.くせ 25.環境 26.事故 27.発達の異常の27章から構成しました。

この本が乳幼児の発達生理の理解に、小児科医のみならず、医学生、研修医、看護師、コメディカル等の方々にお役に立てばこの上もない喜びです。

## 図書紹介 原稿募集

このコーナーへの投稿をお待ちしております。ご執筆された著書などの紹介を掲載しています。600～1,000字程度で編集室までお寄せください。

〒152-8902 目黒区東が丘2-5-1  
国立医療学会誌「医療」編集室「図書紹介コーナー」係宛  
e-mail: iryo@kankakuki.go.jp  
Fax: 03-3411-9421